

iPad を活用した活動報告書③

◆報告者氏名：小島 智子 所属：横浜市立盲特別支援学校 記録日： 2013年2月20日

◆活動内容のタイトル 「視知覚認知向上のための支援」

◆活動内容の概要：

机上での学習に対しての集中力が乏しく、文字学習などの導入が難しかった児童に、iPad のアプリを活用して学習を行った。その結果、机上での学習に対しての集中力がついてきて、楽しみながら文字学習や知育アプリに取り組むことができるようになった。

【対象児（群）の情報】

◆学年： 幼稚部 年長 女児1名

◆障害名： ピーターズ奇形

◆障害と困難の内容

- ・両眼で、0.029であり、低い視力による見えづらさがある。
- ・集中力が乏しく、机上での学習時間が短い。

【活動目的】

◆当初のねらい

対象児は弱視の児童であり、視知覚の認知に障害がある。目と手の協応操作を図り、手指の巧緻性を高めることや、文字の読み書きなどの学習に教育的な支援を必要としている。

iPad のアプリケーションソフトには、対象児も興味・関心を示したので、知育ソフトや算数のソフトを中心に活用することで、机上での学習を継続して取り組めるようにしていくことを目的とした。

◆実施期間 5月～2月

◆実施者：笹見 三津恵（担当教員）

【活動内容と対象児（群）の変化】

◆対象児の事前の状況

学習に対する意欲はあるが、見えづらさからか、途中で活動をあきらめてしまうことが多かった。

◆活動の具体的内容

使用したアプリ（知育えほん、タングラム、順列のアプリ）

使用した機器（書見台、カットテーブル）

◆対象児の事後の変化

iPad でのアプリを使用しての課題をすることで、4月当初は理解ができていなかった順列も楽しみながら定着し、理解することができるようになった。

また、タングラムのアプリでは似た形や複雑な形も理解できるようになり、長時間、机上での学習を集中して行うことができた。



【報告者の気づきとエビデンス】

◆報告者の気づき

机上での学習では、集中力が持続せず、途中で疲れてあきらめることが多かったが、iPad を使用したことで、学習への態度が大きく変わってきた。集中して机上に向かうことができるようになり、より難しい課題にも、自分から挑戦しようとするなど、意欲を持って学習に取り組めることができるようになったのは大きな効果である。

また、iPad での課題を行うことにより、手と目の協応操作、注視・追視する力がついてきて、見る力もついてきているように感じた。